

授業情報				
開講年度	2023年度	開講箇所	グローバルエデュケーションセンター	
科目名	数学基礎プラスγ(線形代数学編) 01			
担当教員	高木 悟／曾布川 拓也／小野 雅隆／野口 和範			
学期曜日時限	夏クォーター 01:無フルOD			
科目区分	数学科目	配当年次	1年以上	単位数 1
使用教室		キャンパス		
科目キー	9S02000005	科目クラスコード	01	
授業で使用する言語	日本語			
授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド			
コース・コード	MATX211L			
大分野名称	数学			
中分野名称	数学			
小分野名称	代数学			
レベル	中級レベル(発展・応用)	授業形態	講義	
	オープン科目			

シラバス情報							
副題	行列の対角化とその応用						
授業概要	※01・02いずれも同一内容です。1つしか履修できません。 本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle によるフルオンデマンド形式の講義である。β（最適化編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること（文系学生で自信がなければα（最適化編）とβ（最適化編）を履修すること）。 (1)「数学基礎プラスβ（最適化編）」の単位を修得している (2) 下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（最適化編）」を解き、γ（線形代数学編）の受講要件を満たしている https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/ なお、最適化に関する説明は本科目ではありません。最適化を学びたい場合は、α（最適化編）あるいはβ（最適化編）を受講すること。 線形代数学は経済学・経営学などの社会科学でも重要なツールとされる。経済・経営などの現実社会における顧客獲得問題は、顧客獲得競争をしている複数社の顧客数が、時間とともにどのように推移していくかを調べる問題であるが、これには線形代数学が深く関わる。本講義では、正方行列の対角化を用いて顧客獲得問題を解けるようになることを目標とする。講義は2次の行列式から始め、対角化までを扱う。 上述のとおり、「数学基礎プラスβ（最適化編）」の単位を修得した、あるいはある程度の数学知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、教務補助のLA（教育コーチ）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。 ★★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/						
授業の到達目標	行列式の値を求められるようになる。 行列の固有値・固有ベクトルを求め、行列の対角化ができるようになる。 行列の対角化を利用した応用問題が解けるようになる。						
事前・事後学習の内容	事前学習：教科書の当該回の内容を読む。 事後学習：授業で扱った例題・問題を解き、教科書の類題を解く。 事前学習と事後学習あわせて2時間程度かかると想定される。						
授業計画	1: #1. 2次と3次の行列式 2次及び3次の行列式の定義と性質 2: #2. n 次の行列式 n 次の行列式の定義と性質、余因子展開、クラメルの公式 3: #3. 固有値と固有ベクトルの定義と性質及び求め方 固有値と固有ベクトルの定義と性質及び求め方 4: #4. 2次正方行列の対角化 2次正方行列の対角化、べき乗の求め方 5: #5. 3次及び n 次正方行列の対角化 3次及び n 次正方行列の対角化、べき乗の求め方 6: #6. 対角化の社会科学への応用（マルコフ連鎖） 対角化の応用その1（マルコフ連鎖） 7: #7. 総復習と最終試験 総復習、最終試験						
教科書	「数学基礎プラスγ（線形代数学編）2020」 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター数学教育部門編 早稲田大学出版部 2020年 早稲田大学内の生協で取り扱っています。一般の書店で取り寄せてもらうことも可能です。						
参考文献	(1)「線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曾布川拓也著 共立出版 2023年 (2)「数学基礎プラス α （最適化編）／ β （最適化編）」 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター数学教育部門編 早稲田大学出版部 (2015年以降の発行であればどれでもよい) (3)「理工系のための線形代数」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館 2016年 (4)「線形代数学-初歩からジョルダン標準形へ-」 三宅敏恒著 培風館 2008年						
成績評価方法	<table><tr><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>試験: 40%</td><td>#7（第7回）に実施する最終試験の得点がそのまま成績に反映される。</td></tr><tr><td>平常点評価: 60%</td><td>#1（第1回）から#6（第6回）のドリルと小テストの得点がそのまま成績に反映される。詳細は履修登録後に Waseda Moodle 当該科目内にアップされている「ガイダンス資料」を確認すること。</td></tr></table>	割合	評価基準	試験: 40%	#7（第7回）に実施する最終試験の得点がそのまま成績に反映される。	平常点評価: 60%	#1（第1回）から#6（第6回）のドリルと小テストの得点がそのまま成績に反映される。詳細は履修登録後に Waseda Moodle 当該科目内にアップされている「ガイダンス資料」を確認すること。
割合	評価基準						
試験: 40%	#7（第7回）に実施する最終試験の得点がそのまま成績に反映される。						
平常点評価: 60%	#1（第1回）から#6（第6回）のドリルと小テストの得点がそのまま成績に反映される。詳細は履修登録後に Waseda Moodle 当該科目内にアップされている「ガイダンス資料」を確認すること。						
備考・関連URL	本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから#1（第1回）がスタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する（日時はすべて日本標準時(JST)である）。						

本科目のビデオ講義担当は野口和範講師です。

関連資料

タイトル

掲載日時

授業カレンダー(2023年度・夏クォーター)

2023/01/06 23:40:59